

保育問答

家事及教育に關する御質問は何でも宜しい質問は端書きにて表記は左の通りに願上候。

女子高等師範學校附屬幼稚園内

フレーベル會編輯員御中

「問」幼稚園にて毎日面白談話と申されて困りますが何かよい本は御座いませんか
 「答」左様一冊で澤山だと云ふものは何うもありません様です、殊に四才位に是々、五才六才位には是々と、程度に應じて分けてあるものなどは全くありませんから、其子供衆の様子次第で適宜に翻検して遣らねばなりません、それから今刊行してある書物では博文館出版の巖谷小波著

ありますから御参考なさいませ。

「問」幼兒の遊嬉は如何なるものを爲さしめたら宜しいでせうか、唱歌に伴はない遊嬉法で何か面白きものは御座いませんか

「答」新工夫なものとては別段に御座いませんが幼児に御注意なさつたら幾等も見出し得るだらうと思ひます、女子高等師範の附屬幼稚園で幼児の行つて居る唱歌に伴はぬ團体的の遊嬉の盛んなのは軍事、汽車事、電車事、まゝ事、おばさん事、砂糖屋遊などで重に室外で行はれて居ます

日本昔話(廿四冊一冊五錢宛)同日本お伽話(廿四冊一冊六錢)及同文館出版 東基吉氏編童話

が時々遊嬉室では是等の遊びをさせることがあります。

殊にまゝ事、お客様事、桃太郎遊びなどは一つの組全体で保育室ですることもありま

す、節句の雛祭などには全國の幼時を一所にし

て遊びました、是等の遊びは幼児が毎日小人數で

絶えず遊んで居ますから夫を旨く工夫すれば幾

等も出来るでせう、ふ手玉、球つなぎなども色々

面白く出来るだらうと思ひますが如何ですか。

「問」私長女三才に相成候が毎夜のお伽にお話を

請求され困り入り候、如何なる種類のものを

話しひ時は宜しきや御教示下され度候

「答」前頁の問答を御読み下されば最早御わかりと

思ひますから別段御答致しますまい

「問」子供の玩具は自分で片付けさせる様に努めて

居りますが云はなければ致しません如何致した

ら善い習慣がつきましたか。

「答」御尤もな御尋ねですが是は片付けないのがあ

たり前なのですから母様が絶えず後を逐つて

催促するより外に仕方がありませんそしてお母

様の此催促は始めは手傳の形で行かなければな

りません、此様にして何年か繼續すると子供に

は最早確かな習慣が成立して物の散亂して居る

のを見るに不快に思ふ様になるのです、彼四

五才位の幼児が玩具を弄そんだまゝ投げ出して

置くのを見て無暗に叱り飛ばすのは考かない事

です、夫れよりも静に呼んで「さわ片付け様、

付け、散らかしたら又片付ると云ふ様にして不

人形は箱に、假面は箱に」などと手傳はせて片

つけ、散らかしたら又片付ると云ふ様にして不

知不識の間に自ら整へ、自から片付る様に導いて遣らなければなりません若し此様な世話を焼

くのが面倒だと云はれるなら一層教育などは面倒だから止るより外ありません、面倒な世話を不倦不撓続けるので訓練の効果が顯はれるのですから氣長がく慈愛を籠めて御育てなさいませ

「問」子供は蟻、ばつた、てふ／＼、の類を無暗にいぢり散して仕舞には殺してしまいますが、一寸小言云つた位では止まりません、如何致しませうか

「答」近來動物虐待防止會だの、小供動物愛護會だのと慈悲博愛の行為を奨むる會合がだん／＼盛になり從つて御尋ねの様な質問も大分起つて参りました誠に結構ではありますが是は極端にならない様に注意する必要があります、御尋ねの様な事も極端に子供に遣らせなかつたらば子供は是等小虫に就ての觀察をする時がありません

から、或度迄は放任して置いて差支ないと思ひます、併し子供は存外慘酷なものですから或度以上には注意して無益な殺生をしない様にしなければなりません併し是よりも大切なのは犬や猫をいぢめる事です、世の多くの母様は幼児が小さき虫などを心なしにいぢくるを大層氣になさるが少し大きな子どもが外で犬や猫をいぢめて居るのは御存じない様です、是が爲めに犬や猫の性質が漸々憚惡になつて来る事は記者などの屢々實見した所です、兎角餘り極端に走らぬ様にして少しは放任された方が子供衆の幸福かと存じます。

「問」子供に小刀と鉄とは危険の様でもありますか一方から考へますと大に玩ばせる必要がある様にも考へます如何なものでせう。

「答」記者も後段の御意見に賛成です、子どもが六七才になつて手が少し器用になつて來たらば

大に弄ばせる必要があると思ひます、記者な

ども子どもの時には危険として刃物は一切持たされなかつたので未だに何にかに付けて不器用で困ります、子供に刃物、成程危険の様ですが存外大した怪我はないものです、時々指先を傷け手の皮を剥ぐ位の事はあります、が是は小刀類の持ち始めは大きくなつた子供にもあるので一度は誰も通らなければならぬ所ですから之れを心配しては子供の發達を鈍らせる許りです、唯吳々も注意する必要のあるのは是等の刃物を決して常に携帶させない事です、此意味で云ふと子供に刃物は頗る危険であります、方など子供が刃物を携帶して居つた爲に意外な

* * * * *

危險に陥つた事のあるのはよく聞く處であります。

伊太利の一教育家此程痴兒教育なりとて或人に語りて曰く「何故なるか」との語は小兒が感覺の時代より推理の時代に移る門戸なり。故に小兒を教育するには最も分り易き方法にて言語が事物、行爲及び感情を表はすことを第一に教ゆ可し。小兒に興味を與へざることは決して話す可からず。少くとも己れの教へんとすることに強いて小兒の注意を求む可からず。如何なる事を質問するゝとも必ず之に答ふ可し。小兒が満足なる答をなさうることもあるも決して不快なる容貌を爲す可からず」と

